

## 学会通信 (二〇〇六年八月〜二〇〇六年十月)

### 一、学会活動

現代中国学会主催講演会

十月二十五日「中国各民族の花嫁衣裳とその物語」 屈雅君 (陝西師範

大学文學院教授)

### 二、学会員活動

河辺一郎「日本の制裁外交―北朝鮮ミサイル実験をめぐる暴走と

混乱」(『進歩と改革』二〇〇六年一〇月号)、「日本外交の暴走

を止めよ」(対談、『前夜』二〇〇六年秋号)、「国連から見た日

本のアジア外交」(講演、愛知アジア・アフリカ・ラテンアメ

リカ連帯委員会、九月三〇日)

黄 英哲「戦後初期台湾之台湾研究的展開―一個歴史断裂中的延

續―(近代東亜的知識生産与転換) 国際学術検討会、近代東亜

文化教育会議・日本委員会主催、於東京大学駒沢キャンパス、

七月二二日)、「日治時期台湾文藝評論集(雜誌篇)」(主編、全

四巻・台湾・國家台湾文学館、一〇月)

高 明深「民族問題」(中国研究所編『中国年鑑 二〇〇六』創土

社、八月)、「神教の土着化の合理性―中国ムスリムの信仰体系

と宗教活動に基いて」(愛知大学国際問題研究所紀要) 第一二

八号、九月)

砂山幸雄「思想空間としての現代中国」(共訳、汪暉著、岩波書

店、八月)

馬場 毅「漢族社会を読み解く」(座談、『中国21』Vol.25、九月)

馮 昭奎「安倍氏は中曽根氏の心仁学に学んでほしい」(『中央公

論』二〇〇六年一〇月号)

松岡正子「藏彝走廊のチベット族と漢族」(報告、愛知大学21世紀

COEプログラム国際中国学研究センター国際シンポジウム

「漢族少数民族研究の接合―クロスオーバー的視点からみる漢族と少数民族の社会と文化」七月一五日〜一六日)

中国21 Vol.27 予告(07年3月刊行予定)

## 特集●中国の日本語教育と対外漢語教育

「ことば」は人を遠ざけ、人を近づける道具である。

日中共同声明から三五年。国交正常化によって本格化した中国での日本語教育であるが、日本語教育に携わる者でもその創成期を知らない世代が多数派になってきた。インターネットの普及、人の往来も盛んになった現代。サブカルチャーを共有する日中の若者。だからこそ、「言語教育の新しい苦悩もある」。

座談Ⅰでは、「中国における日本語教育の移り変わり」をテーマに佐治圭三氏、李翠霞氏、顧明耀氏の三名が往事を振り返り、今日の課題を語りあう。知っている人には懐かしく、知らない人には新しい日本語教育の回顧(懐古)になるだろう。

座談Ⅱでは、中国の対外漢語教育をテーマに、王侃農氏、崔永華氏、鄭天剛氏の三名に語っていただく。中国語学習人口は爆発的に増加し、漢語教育政策の重点は「請進來」(国内へ招き教える)から「走出去」(海外へ出て教える)へ大きくシフトした。中国語普及拡大の国家プロジェクト「漢語橋工程」がスタートし、翌二〇〇五年、日本にも孔子学院が開設された。中国の対外漢語教育政策の今後の展開に、興味は尽きない。

【愛知大学孔子学院開校記念講演録】「新しいアジア主義―アジアにおける日中の役割―」王毅 中国駐日特命全權大使